先輩移住者インタビュー ❶

森岡 咲子（もりおか さきこ）さん

Uターン
福井市→東京→愛知→福井市

子育てを通じて感じた旅と教育の可能性

Profile
福井市生まれ。福井駅東口徒歩5分の古家をDIYで改修したおうち系素泊まり宿「福井ゲストハウスSAMMIE'S（サミーズ）」オーナー。高校まで福井で暮らし、東京大学、大手建設会社勤務を経て福井にUターン。現在は眼鏡が好きすぎて福井にIターンしてきた夫と、愛嬌たっぷりな娘と息子と4人暮らし。ふくい移住サポーターとしても活動。

福井駅東口から徒歩5分の場所にある「福井ゲストハウスSAMMIE'S」は、福井へ足を運ぶ旅人の中では名の知れたゲストハウス。「また来ねの〜」とゲストを送り出すオーナーの森岡咲子さんの親しみやすい雰囲気に、心を掴まれるリピーターが後を経ちません。

福井の外に刺激を求めて

大学進学を機に福井を出た森岡さん。当時はいずれ帰ってくるとは思いもしなかったと言います。

森岡さん

その頃はとにかく福井を出ることしか考えていなかったです（笑）。家と学校の往復で刺激がない毎日で、福井の外に出たら楽しいことがあると信じていました。だから勉強もすごく頑張って、東京の大学に行くことになって。東京は私より頭のいい人が腐るほどいて、勉強することに疲れてしまったけど、国内や海外を旅しながらいろんな刺激を受けていました。

特にその土地の建物やアートに興味がありましたね。まちの景色ってこれまで意識して見ることはなかったけど、実は知らず知らずのうちに暮らしに大きな影響を与えているんだなと思い、それを仕事にしようと大手ゼネコンに就職しました。

地元でゲストハウスをセルフリノベーション

ゼネコンには6年勤め、営業や現場事務などを経験。東日本大震災で価値観が一変したそうです。

森岡さん

暮らしがすべてお金で回る都会の仕組みや、男性が中心の会社の体質など、これまで当たり前だと思っていたことに疑問を持ち、都会を離れたいと思うようになりました。

そんな時に『福井人』という本を作るプロジェクトを知ったんです。地元にこんな面白い人がいるんだと、あれだけ出たいと思っていた福井が気になるようになって。何度も帰省しているうちに、福井にはゲストハウスがないことを知りました。ゲストハウスって年齢や境遇が違うさまざまな人が利用するので、旅行で利用するたびにいろんな出会いがあって楽しかったんです。そんな場所が福井にないなら、自分で作ろうと思いました。

子育てと宿業の両立に奮闘

結婚、出産を経て、森岡さんは2児の母に。国内外からさまざまな人が訪れるゲストハウスは、まさに多様性を象徴した場所。日頃からお客さんのいろんな考えや価値観にふれる経験は子どもたちに良い影響を与えているそう。

森岡さん

ありがたいことに、二人とも人見知りはまったくないですね。例えば海外のゲストが一生懸命コミュニケーションを取ろうとしている姿などを見ているせいか、子どもたちも日頃からいろんな方法で自分の思いを伝えようと工夫していて頼もしいなと思います。我が子はかわいいし、仕事も大切。どちらも全力で向き合っているとついキャパオーバーになってしまうけど、今が一番大変な時だと思って、この瞬間も楽しめたらいいなと思っています。

コロナ禍で教育への関心が高まった

コロナ禍で「SAMMIE'S」も一時期は大きなダメージを受けました。しかし、空いた時間を利用して通信制高校で国語を教えることに。

森岡さん

福井は学力も高く教育に熱心な地域。もともと私も教育に関心が高かったので先生を始めてみました。いろんな生徒さんと接することで今の学校教育の制度や仕組みにも興味が広がり、小学校の教員試験にもチャレンジしました。

教育に関わるなかでゲストハウスの価値も再認識できたような気がします。旅ってめちゃくちゃ人を成長させます。限られた予算や時間のなかで何を選ぶかで自分の価値観が明らかになる。今までそんな視点で考えたことはなかったけど、自分で決めて、体験する大切さは旅で得られる教育的効果の一つかもしれません。福井のゲストハウスだからこそできる、旅と教育をつなぐ親子留学のような取り組みができないかな。そういう文化が根付いていくと、福井の学力の高さがさらに深みを増すと思うんですよね。

先輩移住者インタビュー ❷

神尾 奨（かみお すすむ）さん

Iターン
東京都→坂井市

サポーター魂からつながったユニークな移住

Profile
東京都小金井市出身。FC東京を応援するなかで、サウルコス福井（現福井ユナイテッド）に出会い、東京と福井を往復しながら応援を続ける。コロナ禍で現地で応援できないことから2022年に福井へ移住。織ネームを手がける「松川レピヤン」で働きながら、サポーター活動に情熱を注いでいる。ふくい移住サポーターとしても活動。

移住理由は、人によってさまざま。仕事やまちの魅力、人、そして「自分の好き」を求めて移住する人もいます。神尾 奨さんは、好きなサッカーチームを応援するため、2022年6月に東京都から福井県坂井市へ移住しました。好きなもののそばで暮らす楽しさ、仕事の見つけ方、福井での暮らしなどを伺いました。

好きなチームのための移住があってもいい

**「サウルコス福井（現福井ユナイテッド）」の試合観戦をきっかけに東京から定期的に福井へ足を運んで応援するようになった神尾さん。
コロナ禍で現地での応援が困難になると、本格的にサポーター活動をするため、福井への移住を模索します。**

神尾さん

現地でサポーター活動をするためにも、まずは仕事探しをしようと、福井の職探し応援サイト「291JOBS」を活用しました。何社か自分で企業を探して面接を受けていたのですが、サポーター活動のために移住したいと伝えると、「好きなチームのために移住しても続けられるかどうか…」「チームが弱くなったらまた離れるのでは…」と言われることもあり、理解のある会社となかなか出会えなかったんです。

一人の職員との出会いが道を開く

転機が訪れたのは2022年1月。　神尾さんは福井県主催の移住イベントに参加し、福井県坂井市の職員と出会います。

神尾さん

サポーター活動のために移住したいこと、その思いを理解してくれる会社になかなか出会えないことなど、これまでの思いを伝えたんです。職員の方に親身に相談に乗っていただき、坂井市丸岡町で織ネームの製造を手がける「松川レピヤン」という会社を紹介してもらいました。

松川レピヤンは福井の女子フットサルチーム「福井丸岡RUCK」の公式スポンサーで、過去には選手が従業員として働いていたことがあったんです。面接でも私のサポーター活動にも理解を示していただき、無事入社することになりました。家も職場から車で10分の場所を見つけ即決しました。

地産地消の食が手に入る豊かさ

県の「定住促進のための交通費助成制度」や「移住支援金制度」を利用した神尾さん。2022年7月、福井での暮らしがスタートしました。

神尾さん

実際に暮らしてみると、都市部との違いを感じることが多いですね。まずは物価。食材が安く買える場所がいっぱいあるのも魅力的です。いろんなものが地産地消で手に入るので、何でも新鮮なんです。福井で回転寿司を食べると「魚もこんなに違うの！？」と驚きました。あとはお米が何より美味しくて。コシヒカリ発祥の地というだけあって、福井のお米はとても気に入っています。

さらに、身近にアクティビティを楽しめるところが多いですね。実家にいた時より、外で身体を動かすようになりました。私が住んでいる坂井市は、山や海など自然に恵まれている場所で、山の方に行けばキャンプ場や温泉、海に行けば海水浴や港町散策、漁港で新鮮な魚介を食べることもできます。少し足を延ばすだけでさまざまな楽しみ方があるので、家にいることが少なくなりました。

福井のスポーツ熱を高めたい

平日は会社で働き、土日は福井ユナイテッドのサポーター活動に精を出す日々。福井で、思い描いた暮らしはできているのでしょうか。

神尾さん

福井は暮らしやすいなと思います。誰も知り合いがいない状態で移住しましたが、サッカーを通じて交流が広がりました。また、地域リーグでは選手との距離が近いので、直接コミュニケーションを取る機会が多いのもうれしいですね。

サッカー以外にも、福井県では「福井ブローウィンズ」（バスケット）や「福井丸岡RUCK」（フットサル）、「福井永平寺ブルーサンダー」（ハンドボール）など、地域に密着したスポーツチームがあります。一部のファンから盛り上がりが広がり、もっといろんな人に見に来てもらえるよう、これからも地域全体でスポーツ熱を高めるお手伝いができればと思っています。